

久保田顕二名誉教授略歴

(生年月日)

昭和29年12月7日

(学 歴)

1979年3月 筑波大学第一学群人文学類 卒業

1983年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程修士課程 修了

1987年3月 東京大学大学院人文科学研究科哲学専門課程博士課程 満期退学

(学 位)

1983年3月 修士(文学)(東京大学)

(職 歴)

1994年4月 - 1999年9月 小樽商科大学商学部 助教授

1999年10月 - 2018年3月 小樽商科大学商学部 教授

2004年4月 - 2005年3月 小樽商科大学商学部 一般教育系学科主任

2017年4月 - 2018年3月 小樽商科大学商学部 一般教育系学科主任

2018年4月 - 2020年3月 小樽商科大学商学部 特任教授

久保田顕二名誉教授研究業績

共 著

1. 久保田顕二、『哲学への旅—不安への誘い—』（第2章「人格の同一性」）北樹出版、1988年5月
2. 『イギリス哲学の基本問題』（第7章「功利主義の台頭」）寺中平治、大久保正健〔編〕研究社、2005年4月

論 文

1. 「ヒュームの因果論」『論集』Ⅲ 東京大学文学部哲学研究室、1985年1月
2. 「ヒュームの『自然宗教に関する対話』について」『論集』Ⅳ 東京大学文学部哲学研究室、1986年1月
3. 「ヒュームにおける情念と道徳」『哲学雑誌』第104巻 第776号 哲学会編・有斐閣、1989年10月
4. 「自然的徳と人為的徳」『イギリス哲学研究』第15号 日本イギリス哲学会、1992年4月
5. 「積極的安楽死と消極的安楽死（Ⅰ）—『殺すこと』と『死ぬに任せること』—」『倫理学研究』第5号、広島大学倫理学研究会、1992年6月
6. 「二重結果の原則について—その構造と問題点—」『応用倫理学研究』Ⅰ 千葉大学教養部倫理学教室、1993年3月
7. 「積極的安楽死と消極的安楽死（Ⅱ）—『殺すこと』と『死ぬに任せること』—」『Contexture：教養紀要』第11号 埼玉工業大学人文会、1994年7月
8. 「安楽死とパターナリズム」『会報』第42号 北海道哲学会、1995年7月
9. 「二重結果の原則と人格の尊重—クインの所説をめぐって—」『生命・環境・科学技術倫理研究』Ⅰ 千葉大学、1997年3月
10. 「ミルの他者危害論」『哲学雑誌』第112巻 第784号 哲学会編・有斐閣、1997年10月
11. 「生殖医療と人間の尊厳—ビルンバッハーの見解をめぐって—」『生命・環境・科学技術倫理研究』Ⅲ 千葉大学、1998年3月
12. 「J. S. ミルの功利主義に関する一考察」『人文研究』第97輯、小樽商科大学、1999年3月
13. 「応用倫理学と『自然』の概念—ビルンバッハーの見解をめぐって—」『生命・環境・科学技術倫理研究』Ⅴ 千葉大学、2000年3月
14. 「イギリス経験論の倫理思想」『日本倫理学会大会報告集2000年号』日本倫理学会、2000年9月
15. 「H.L.A.ハートと権利の選択説（その一）」『生命・環境・科学技術倫理研究』Ⅵ-2、千葉大学、2001年3月
16. 「環境倫理学と非人間中心主義」『生命・環境・科学技術倫理研究Ⅷ』、千葉大学、2003年2月
17. 「ヒュームの共感概念について」『思想』第1052号（2011 No.1052）岩波書店、2011年12月
18. 「事前指示書と先立つ自律」『生命倫理資料集』Ⅷ 富山大学大学院医学薬学研究所

医療基礎学域哲学研究室, 2014年2月

19. 「慢性病と生命倫理の再考」『生命倫理・生命法研究資料集』Ⅰ 芝浦工業大学工学部応用倫理学研究室, 2015年3月
20. 「権利言説についての一考察」『言語センター広報』第26号 小樽商科大学言語センター, 2018年1月
21. 「不正を働く権利」『人文研究』第138・139輯 小樽商科大学, 2020年3月

その他

1. (翻訳) H.T.エンゲルハート H.ヨナスほか著, 加藤尚武・飯田亘之[編]『バイオエシックスの基礎 欧米の「生命倫理」論』(第1部2「医学における人格の概念」) 東海大学出版会, 1988年5月
2. (シンポジウム報告文字化記録)「なぜ人を殺してはいけないか」(共同)『倫理学年報』第50集 日本倫理学, 2001年3月
3. (シンポジウム)「環境倫理に対するロック哲学の関わりについて」日本イギリス哲学会第28回研究発表「シンポジウムⅠ: ジョン・ロックの遺産」(於・秋田大学), 2004年3月
4. (共訳) ジョン・ロールズ著『ロールズ哲学史講義(上下)』坂部恵[監訳] みすず書房, 2005年2月
5. (事典)『イギリス哲学・思想事典』(「自然主義的誤謬」) 研究社, 2007年11月
6. (書評) Alex Rosenberg and Daniel W. McShea, *Philosophy of Biology: A Contemporary Introduction* (Routledge) 『イギリス哲学研究』第33号 日本イギリス哲学会, 2010年3月
7. (翻訳)『倫理学と哲学の架橋: ファインバーグ論文選』(第3章「法的パターンリズム」, 第13章「開かれた未来に対する子供の権利」) 嶋津格, 飯田亘之[編集・監訳] 東進堂, 2018年11月
8. (報告文字化記録)「『権利』に訴えての問題解決の手法はどこまで有効か——権利分析から示唆される一つの見方」『生命倫理・生命法研究資料集』Ⅴ 芝浦工業大学工学部応用倫理学研究室, 2020年7月